

グルタチオン大量点滴療法

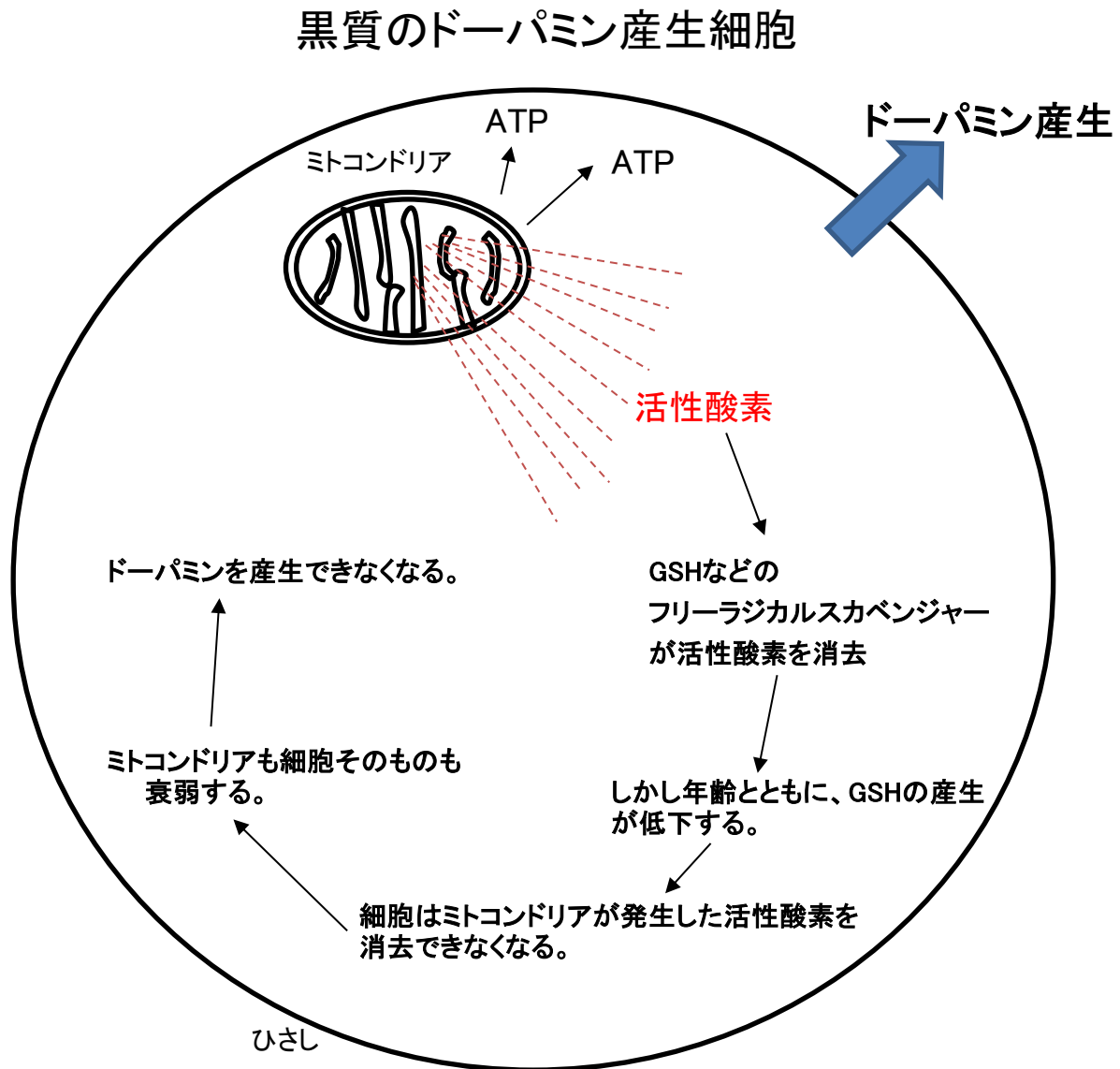
パーキンソン病

歩行障害や手の震え、筋肉や関節のこわばりを減らします。動作がスムーズになり、滑らかに話せるようになります。また、うつ症状も改善します。

グルタチオン点滴が有効な理由

- ①グルタチオンは、活性酸素の毒性を消し去るだけでなく、すでに出来てしまった細胞の老化やがん化を招くと考えられている過酸化脂質を消去して、身体の酸化を防ぐ。
- ②グルタチオンは黒質細胞の活性酸素を除去して、黒質でのドーパミン産生能を高めると考えられている。
- ③パーキンソン病においては、グルタチオンはドーパミン受容体の感受性を高める作用もあると考えられている。

グルタチオン点滴が有効に働く仕組み



パーキンソン病では、脳幹の黒質(SN)のグルタチオンが減少している。

① 細胞内のグルタチオンの濃度を高めると、抗酸化(フリーラジカルスカベンジャー)ネットワークの一員として働き、活性酸素である過酸化水素や過酸化脂質の消去がスムーズに行えるようになる。

② さらにグルタチオンの働きで有害物質(過酸化脂質)を細胞外に排出することで、細胞を解毒する。

神経細胞に対するグルタチオンの作用

- ① パーキンソン病は脳基底核の線状体でのドーパミンの不足が原因である。
- ② フリーラジカル・スカベンジャーであるグルタチオンは脳内で絶えず発生する活性酸素を消去して、活性酸素から脳神経細胞を守る、役割があるが、パーキンソン病ではグルタチオンが脳内に著名に減少していることが明らかになっている。
- ③ グルタチオン大量点滴は脳幹黒質細胞のドーパミンの産生を促し、またパーキンソン病の原因であるドーパミン受容体の感受性を高める効果があると考えられている。